

第4学年音楽科学習指導案

日時 平成15年9月10日(水) 5校時
児童 宮古市立宮古小学校4年2組
男子15名 女子12名 計27名
場所 大音楽室
指導者 小原 裕

- 1 題材名 いい音えらんで (音のカーニバル)
(オーラリー)
(茶色の小びん)

2 題材について

(1)題材について

この題材は主に学習指導要領のA表現(3)のイ「音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」、(4)のイ「即興的に音を選んで表現し、いろいろな音の響きやその組合せを楽しむこと。」、そしてB鑑賞(1)のア「曲想の変化を感じ取って聴くこと。」、ウ「楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くこと。また、それらの音や声の組合せを感じ取って聴くこと。」に関するものである。

ここでは、声や楽器の音、身近に聴くことのできる様々な音に関心をもって耳を傾けるとともに、表現を工夫する活動を通して、音や音楽に対する感性を育てることをねらいとしている。そこで、低学年から積み上げてきた音づくりの一つとして特に「素材と音色」という視点から音を感じたり奏法を工夫したりして児童自身が考えるいい音・好きな音をみつけていく学習を進めていきたい。

(2)児童について

音楽の授業において喜んで活動している児童が多いものの、技能的な面では、音程が不安定な児童やみんなと同じ声質で歌えない児童、リコーダーの運指が不十分な児童がいる。

音に対しては、普段、歌うときや演奏するときにもあまり気をつかっている様子はなく、じっくりと音色と向き合うことは初めてである。そこで、本單元において様々な種類の楽器にふれたり、いい音で楽器を鳴らそうとしたりする学習活動を通して児童に音楽の楽しい側面だけでなく、人に感動をもたらす音楽の美しさの側面にも気づかせ、児童の音楽性を高めていきたい。

(3)指導にあたって

初めは、音当てクイズなどの活動で音色に耳を傾け集中して聴くという体験をさせ、児童の音色に対する興味や関心を高めていきたい。最初に扱う教材の「音のカーニバル」はリズムにのって歌っていると自然に手拍子や打楽器を打ちたくなるようなフレーズになっているので、いろいろな楽器で歌に合わせて表現するような活動を取り入れて音色に関心をもたせていきたい。そして、楽しい曲の中で自分で見つけた音やつくった楽器の音を鳴らしたり、演奏の仕方を工夫したりさせながら曲をつくりあげていく喜びを味わわせたい。

次に「オーラリー」の教材を用いて、リコーダーにおける高音域の音をきれいに鳴らす練習に取り組みさせていく。初めてサミングの技法を学び演奏することになるが、きれいな音色で高音域をだすための息や指づかいなどを意識させることで音色に対しての関心をさらに高めていきたい。

そして、ジャズのリズムに乗りながら数種類の楽器で合奏をすることができる「茶色の小びん」では、合奏の楽しさを味わうことはもちろんであるが、各楽器の奏法を工夫することで音楽の感じが変わってくることを感じ取らせていきたい。この教材は、八長調で書かれているので階名視唱から楽器の演奏へと活動を展開しやすく、各パートの役割も明確であるため、児童が合奏の構成に気づきながら演奏を工夫していくことができるすぐれた教材である。じっくり自分のパートの楽器と向かい合う中で、違う楽器での音色の違いだけでなく、同じ楽器でも奏法によって音色が違ってくことにも気づかせて演奏表現に生かしていけるようにしていきたい。

3 題材の目標

- (1)音色に対する関心を高め、その違いを感じ取ったり、味わったりしながらいい音を求めようとする。
- (2)曲想にあった音色を自分なりに選んで演奏を工夫することができる。

4 題材の評価規準

- (1)音の特徴や音色の違いに関心をもち、進んで音さがしや音えらびに取り組んでいる。(関心・意欲・態度)
- (2)音の特徴や音色の違いを感じ取り、それを生かした表現の工夫ができる。(音楽的な感受と表現の工夫)
- (3)楽器の奏法に気をつけたり、拍の流れに乗ったりして表現することができる。(表現の技能)
- (4)楽器の音色の違いを感じ取ったり、演奏のよさを味わったりして聴くことができる。(鑑賞の能力)

5 指導計画 (13時間)

- ・音：音のカーニバル
- ・オ：オーラリー
- ・茶：茶色の小びん

次	指導事項	時	主な学習活動	教材	具体的評価規準
1	音色の違いを聴き取り、その特徴による雰囲気の違いを味わって演奏することができる。	1	・範唱や伴奏に合わせて歌う。 ・決めた音の部分のリズムを手拍子などで打ちながら歌う。	音	・自分のパートのリズムを正しく打つことができる。(技能)
		2	・音色を聴きわけて仲間を探す。 ・リズムに合わせて音色の違いを楽しみながら演奏する。	オ	・音色の違いに気づき、どの楽器の音をどんな順番で鳴らすと楽しいかを考えて演奏している。(感受・工夫)
		3	・楽器以外のものや自作の楽器を使って音色を楽しみながら演奏する。 ・オーラリーを範唱や伴奏に合わせて歌う。	茶	・自分からすすんで音の出るものをさがしたり、楽器を自作したりして楽しみながら演奏している。(関・意・態)
2	曲想を感じ取り、曲にあった演奏のしかたを工夫して表現できるようにする。	4	・オーラリーを階名唱する。 ・前半の部分をリコーダーで演奏してみる。		・オーラリーの前半部分をリコーダーで演奏することができる。(技能)
		5 本時	・サミングの技法を学び、リコーダーで高音域の音を鳴らす。 ・後半の部分をリコーダーで演奏してみる。		・うつくしい音で高音域の音を鳴らして演奏することができる。(技能)
		6	・副旋律を階名唱する。 ・副旋律をリコーダーで演奏し、2部合奏を楽しむ。		・主旋律と副旋律が重なり合う音の響きの良さを味わって聴くことができる。(鑑賞)
		7	・曲想を感じ取ってリコーダーで2重奏する。		・オーラリーの曲の感じにあった演奏の仕方を考え、音の大きさや速さ等を工夫して演奏している。(感受・工夫)
3	楽器の組み合わせや音のバランスを考え、楽器の音色を味わいながら合奏ができるようにする。	8	・茶色の小びんの演奏を聴き、複数の楽器が使われてできる音の響きを味わう。 ・範唱や伴奏に合わせて歌う。		・茶色の小びんの演奏を聴きながら、その中で使われている楽器を音色を手がかりに聴き取り、その響きを味わうことができる。(鑑賞)
		9	・グループごとに音色を考え、使用する楽器を選択し、演奏者を決める。 ・階名を読み、音とりをする。		・パートの役割を理解し、その役割にあった音色の楽器を選ぶことができる。(感受・工夫)
		10	パートごとに分かれて音とりをし、正しく演奏できるように練習する。		・自分のパートの旋律を正しく演奏することができる。(技能)
		11 12	・グループごとに集まり、演奏のしかたを工夫しながら練習をする。		・自分のパートをみんなと合わせる中でリズムや速さ、音の大きさ、楽器の鳴らし方などを工夫して、よりよい演奏に高めていくことができる。(感受・工夫)
		13	・グループごとに練習の成果を発表する。		・それぞれのグループのよさを感じ取り、みんなに伝えることができる。(鑑賞)

6. 本時の学習指導

(1) 目標

- ・音色を意識し、サミングの技法を身につけてうつくしい音でリコーダーを演奏することができる。

(2) 本時の評価規準と判断状況例

評価規準 (観点)	評価場面 (方法)	Aの状況例	Bの状況例	Cへの手立て (支援)
・うつくしい音で高音域の音を鳴らすことができたか。(表現の技能)	・練習をする場面 (教師による観察)	・楽曲の中でミ、ファ等の高音域の音を安定して鳴らすことができる。	・ミ、ファ等の高音域の音を指の位置、息の量の調整、息の方向に気をつけながら鳴らすことができる。	・息づかいや指の位置、タンギングの仕方を個別に指導する。

(3) 展開

段階	学習活動	○指導上の留意点及び◇評価と◆支援
1 導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○「オーラ リー」を斉唱する。 ○「オーラ リー」を階名唱する。 ○「オーラ リー」の前半をリコーダーで演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この曲の持つ雰囲気を感じられるように歌わせる。 ・キーワード…「オーラ リー」とは水の精。水はにごりがなく、透き通って透明でうつくしい。この雰囲気と曲の感じを結びつけてとらえさせておく。
2 課題を把握する。 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を把握する。 ★とにかく吹ければいいのかな？ <ul style="list-style-type: none"> ・いい音で ・水の精が見えるように <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 高いミやファの音に気をつけて後半をうつくしい音でふけるようになろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・うつくしい音で吹くことを確認。 ・高いミやファなどの知らない指づかいの音があることを確認。 ・今日のめあてがサミングの技法を用いてうつくしい音で演奏できるようになることであることを確認する。
3 見通しを持つ。 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○サミングの技法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低いミやファと同じ運指で親指を少しずらして裏穴を押さえる。 ・児童の具体的なめあてとなるように教師がサミングの技法をつかって範奏して聴かせる。
練習をする。 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ○うつくしい音が出るように個人で練習する。 ★うつくしい音がでないのはどんな吹き方の時？ <ul style="list-style-type: none"> ・穴がうまくふさげないとき。 ・息が強すぎる時。 ・タンギングがわるいとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇うつくしい音で高音域の音を鳴らすことができたか。 ◆うつくしい音で鳴らすための手がかりを確認。「指の位置」「息の量の調節」「タンギングの仕方」 ◆個別の練習で正確で安定した音を出すコツをつかませる。 ◆うまく音が出せていない児童には「指の位置」「息の量の調節」「タンギングの仕方」などのアドバイスをを行う。 ・後半を安定して吹けるようになったと自分で判断した児童はグループをつくりお互いの音を聴きあってさらに高めあうようにさせる。

段 階	学習活動	○指導上の留意点及び◇評価と◆支援
5 評価しあう。 (10分)	<p>○各グループのうつくしい音をみんなで聴きあう。</p> <p>★うつくしい音を出すためにどんなことに気を付けましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強く吹きすぎない。 ・裏穴をあけすぎない。 ・穴を指できちんとふさぐ。 ・「ティー」のタンギング。 <p>★みんなで全部をとおして、うつくしい音で演奏してみましょう。</p>	<p>○指導上の留意点及び◇評価と◆支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかのグループにモデルとして演奏してもらおう。 ・どんなことに気を付けるとうつくしい音ができるのかを確認しあう。 うつくしく高いミやファの音を出す方法 「強すぎない息の吹き込み。」 「裏穴のすきまは空けすぎない。」 「決められた穴をきちんとふさぐ。」 「トゥーでなく、ティーと発音する。」 ・教師がギターで伴奏をつける。 ・ギターの伴奏が聞こえるようにやさしく演奏するようにさせる。 ・曲の全体を演奏することで今日の練習で「オーラリー」が吹けるようになったという満足感を味わわせる。 ◇自分の演奏をふりかえり、うつくしい音で演奏できたかの自己評価を挙手で確認する。
6 まとめをする。 (5分)	<p>○副旋律も流して、全体を通して演奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2部合奏で2つの音がとけあううつくしさを味わうことで副旋律も吹けるようになりたいという気持ちをもたせる。